



# McAfee Vulnerability Manager for Databases

最も重要なデータにリスクを総合的に評価

## 主な特長

- 優れた可視性により、データベースのセキュリティ状況を簡単に把握できます。
- 集中管理コンソールから組織内の複数のデータベースをスキャンできます。
- 迅速なコンプライアンス対応で監査サイクルが短縮されます。これにより、コストを大幅に削減できます。
- データベースシステムに対する詳しい知識は必要ありません。
- ユーザーの役割に合わせて、分かりやすいカスタムレポートを作成できます。

データベースには組織にとって最も重要で貴重なデータが格納されています。しかし、脆弱性評価製品の大半は、データベースに関する情報を収集できず、徹底した検査を実行できないため、データが危険な状態になっています。実際、毎週のように大手企業のデータ侵害が報じられています。Intel® Security が提供する McAfee® Vulnerability Manager for Databases は、ネットワーク上のデータベースを自動的に検出し、最新のパッチが適用済みかどうかを確認します。また、脆弱なパスワード、デフォルトのアカウントなど、一般的な脆弱性に対してもテストを行います。これにより、法規制に対する対応状況を公開し、重要データの保護を強化できます。

McAfee Vulnerability Manager for Databases は、Oracle、Microsoft SQL Server、IBM DB2、MySQL などの主要なデータベースシステムに対して 4,700 以上の脆弱性検査を実施し、様々な攻撃経路からのリスクを評価します。他の製品と異なり、McAfee Vulnerability Manager for Databases ではスキャン結果を簡単に確認できます。重大度の低い脅威のために、重大な問題を見逃すことはありません。データベースセキュリティの専門家が提供する情報に基づき、優先度別に脅威を分類し、修正スクリプトと推奨事項を提供します。

Vulnerability Manager for Databases では、データベースの脆弱性が視覚的に表示され、必要な修正情報が提供されるため、甚大な被害をもたらす侵害を未然に防ぐことができます。監査やコンプライアンス対応の負荷が軽減されるので、コストを削減できます。

## 迅速なデータベース コンプライアンス対応

McAfee Vulnerability Manager for Databases では、コンプライアンス要件を満たすために初期スキャンを迅速に実行する機能や、すぐに利用できるレポートを用意しています。最小のリソースで監査に必要な検査結果を取得できます。

初期評価を迅速に行うため、McAfee Vulnerability Manager for Databases には次の機能が装備されています。

- ネットワーク上のデータベースを自動的に検出します。
- 重要な情報が格納されているデータベースを検索し、特定します。
- ポート スキャンを迅速に実行し、データベースのバージョンとパッチの適用状況に関する情報を収集します。
- 様々なコンプライアンス用に設定されたレポートで検査結果を表示できます。

## 効率性に優れた高速なパスワード検査

データ侵害の大半はパスワードの漏えい起因しています。ハッカーは、盗み出したパスワードを利用して、自動的に攻撃を仕掛けてきます。基本的な対策としては、脆弱なパスワードを使用しない、他のユーザーやアカウントとパスワードを共有しない、などの方法がありますが、パスワードの状況を確認するもの簡単なことではありません。

McAfee Vulnerability Manager for Databasesは、脆弱なパスワードを迅速に検出し、同じパスワードやデフォルトのパスワードを使用しているアカウント、共有されているパスワードにフラグを設定します。また、SHA-1、MD5、DESなどでハッシュ化されたパスワードもスキャンします。

パスワードの検査はデータベースに直接接続して行うので、データベースサーバーに多大な負荷をかけることはありません。また、ログイン試行を過剰に行ってユーザーをロックアウトすることはありません。

## データベース セキュリティの専門家の経験を活用

データベース管理システムは複雑で、固有のセキュリティリスクが存在します。他のシステムソフトウェアのようにパッチの適用やパスワードの強化で解決されるリスクもありますが、SQLインジェクションやバッファオーバーフロー エクスプロイトなど、データベース固有の脆弱性も存在します。McAfee Vulnerability Manager for Databasesの開発チームは、最近のOracleが公開した10件のCritical Patch Update (CPU) の中で7件のパッチの作成に貢献しています。このソリューションでは、データベースセキュリティの専門家の経験を生かし、次の機能を提供しています。

- SQLインジェクション、バッファオーバーフロー、不正または安全でないPL/SQLコードなど、データベース固有のリスクに対する脆弱性を識別します。
- 検出結果の優先度を判別し、すぐに対応が必要な問題を特定します。

- 修正スクリプトなど、リスクの解決方法に役立つ情報を提供します。
- データベースに詳しくないセキュリティ担当者やコンプライアンス担当者でも、重要なデータに対するリスクをすぐに認識し、修正方法を確認できます。

## McAfee ePolicy Orchestratorプラットフォームとの統合で全体の可視性を強化

McAfee Vulnerability Manager for DatabasesはMcAfee® ePolicy Orchestrator® (McAfee ePO™) のダッシュボードと完全に統合されています。すべてのデータベースの情報を一元管理し、1つのダッシュボードでサマリーを確認したり、レポートを作成することができます。詳細な情報やスキャン設定を確認するだけでなく、脆弱性スキャンの管理コンソールを直接起動し、きめ細かい管理作業を行うことができます。

## 次のステップ

詳細については、<http://www.mcafee.com/jp/products/database-security/index.aspx>をご覧ください。また、弊社の営業担当またはお近くの販売代理店までお問い合わせください。

## McAfee Endpoint Securityについて

McAfee Endpoint Securityは、デバイス、デバイス上で処理されるデータ、デバイス上で実行されるアプリケーションを保護するセキュリティ対策を提供します。この総合的なソリューションにより、生産性に影響を及ぼすことなく、多層的なエンドポイント保護対策を容易に実装できます。詳細については、<http://www.mcafee.com/jp/products/endpoint-protection/index.aspx>をご覧ください。



### McAfee. Part of Intel Security.

東京本社 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-12-1  
渋谷マークシティエント 20F  
TEL 03-5428-1100 (代) FAX 03-5428-1480  
西日本支店 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島 2-2-2  
近鉄堂島ビル 18F  
TEL 06-6344-1511 (代) FAX 06-6344-1517  
名古屋営業所 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 4-6-17  
名古屋ビルディング 13F  
TEL 052-551-6233 (代) FAX 052-551-6236  
福岡営業所 〒810-0801 福岡県福岡市博多区中洲 5-3-8  
アクア博多 5F  
TEL 092-287-9674 (代)  
[www.intelsecurity.com](http://www.intelsecurity.com)

IntelおよびIntelのロゴは、米国法人Intel Corporationまたは米国またはその他の国の関係会社における登録商標です。McAfee、McAfeeのロゴ、ePolicy Orchestrator、McAfee ePOは米国法人McAfee, Inc.または米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。本資料は情報提供を目的としています。ここに記載されている製品計画、仕様、説明は予告なしに変更される場合があります。本資料の内容について弊社はいかなる保証も行いません。Copyright © 2013 McAfee, Inc. 60598ds\_vm-db\_10138